エッセイ作成の手引き

1　基本的な事項

- エッセイは、コミュニケーションデザイン研究科の入学希望者が出願にあたって作成しなければならない文書です。テーマ（課題）からひとつを選択し、規程の文字数で回答欄にご記入ください。
- いずれのテーマにも正解はありません。エッセイでは**課題設定能力・論理的思考力・基礎的知識**を評価します。**各テーマのなかで求められている全ての事柄に対応いただくようご留意ください。**
- エッセイは読者が理解しやすいように、**簡潔明瞭な文体（だ・である調）**を用いてください。作成にあたっては**箇条書きを用いず文章で表現してください。**ひとつのセンテンスはなるべく簡潔に短く（ひとつの文が 3 行より長くならないように）まとめてください。もし何行にも及ぶ場合には、いくつかのセンテンスに分解できないか再考するとよいでしょう。
- 論旨の展開に一貫性をもたせるよう心掛けてください。句読点の付け方にも注意し、誤解を招かないつなぎ言葉（接続詞など）を用いてください。

2　引用にあたっての注意点

- エッセイの作成にあたっては**必ず文献（本・論文・雑誌記事・ネット記事等）をひとつ以上引用**してください。以下に基本的な引用方法を示します。

2.1　直接引用

- 他者の書いた文章をそのまま書き写すことを「直接引用」といいます。短い引用文（短文引用）と長い引用文（長文引用）の場合で表現方法が異なります。直接引用する際には、原文（翻訳文）のとおり正確に転記してください。

① 短文引用の場合は引用部分を「」で囲み、著者の姓、出版年、所在ページ数を文末の（ ）内に記載します。引用ページが複数にまたがる場合は「pp.13-14」のように表記してください。
例：田中は「こうした状況では〜〜〜といえるだろう」（田中, 2012, p.13）と述べる。

② 長文引用（おおむね 3 行以上の直接引用）の場合は、「1 行あけてインデント機能で 2 文字下げ、引用が終わったら 1 行あける」という操作をします。
例：

> この点について、田中は次のように指摘する。
>
> ……
> ……
> ……。（田中, 2012, p.13）
>
> そうだとすると、〜〜〜。

2.1　間接引用

・　他者の文章を書き写すのではなく、内容を要約して使う場合を「間接引用」といいます。その場合は下記の方法で著者の姓と出版年を文中に表示してください。

①　文頭または文の途中で引用元を示す場合、「著者の姓（出版年）」の形式を用います。この際、括弧は全角を、数字は半角を用います。
例：「田中（2012）は…」、「Tomas（2005）によれば…」

②　文末に引用元を示す場合、「著者の姓, 出版年」を全角カッコの中に表記します。
例：「…と指摘されている（田中, 2012）。」、「…という（Tomas, 2005）。」

③　同一著者で、同一年に刊行された文献がいくつかある場合、刊行年のあとにアルファベットの小文字 a、b…を付して区別します。
例：「たとえば田中（2014a, 2014b）では…」、「…とする（Tomas, 2014a, 2014b）。」

④　著者が 2 名以上の共著の場合は、各著者名を併記します。3 名以上の場合は第 1 著者名を表記し、第 2 著者以降は日本語文献では「他」または「ほか」、英語文献では“et al.”と略記します。
例：「鈴木・佐藤（2012）は…」、「…と言われている（鈴木・佐藤, 2012）。」
例：「田中ほか（2014）は…」、「…であるという（Tomas et al., 2010）。」

3　文献リスト

・　**エッセイの本文中で言及もしくは引用した文献のリストを文末に記載してください。**「言及・引用していないが参考にした」文献については記載する必要はありません。**なお、文献リストは規程の文字数に含みません。**邦文も欧文も含めてすべての文献を任意の順番で整理してください。以下に文献の種類ごとの記載方法を示します。

①　書籍：著者名（刊行年）『図書名』，出版社名.
例：磯野正典（2010）『地方分権とローカルテレビ局』，文眞堂.
鈴木秀美・山田健太編著（2011）『よくわかるメディア法』，ミネルヴァ書房.

②　書籍内論文；著者名（刊行年）「タイトル」，編者名編『図書名』，出版社名，該当ページ.
例：山本幸俊（1983）「近世初期の論所と裁判 ――会津藩を中心に」，北島正元編『近世の支配体制と社会構造』，吉川弘文館, pp.22-23.

③　雑誌論文：著者名（刊行年）「タイトル」，『雑誌名』巻（号），該当ページ.
例：川山竜二（2020）「科学の社会学／社会学の科学：科学分野の社会学に向けて」，『社会

情報研究』2（1）, pp.1-11.

④　政府刊行物等：作成機関名（刊行年）「タイトル」，発行元（省略可）.
例：公益財団法人連合総合生活開発研究所（2021）『「人生 100 年時代」長寿社会における新たな生き方・暮らし方に関する調査研究報告書』.

⑤　ウェブページなど：著者名（更新年）「タイトル」，ウェブサイト名（省略可）（アクセス日, URL）.
例：日本社会学会（2006）「日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針」，日本社会学会ウェブサイト（2021 年 4 月 12 日取得, https://jss-sociology.org/about/researchpolicy/）

⑥　翻訳書：原典の情報（= 刊行年，訳者名訳『タイトル』，出版社名.）
例：E, Fromm.（1941）*Escape from Freedom*, New York: Reinehart and Winston.（= 1951、日高六郎訳『自由からの逃走』、東京創元社.）

⑦　外国語書籍：姓，名イニシャル.（刊行年）*図書名（斜体）*．出版社地名：出版社.
例：Morley, D. (2017) *COMMUNICATIONS AND MOBILITY*. Oxford: WILEY Blackwell.

⑧　外国語書籍内論文：姓，名イニシャル.（刊行年）‘タイトル’in 姓，名イニシャル.（ed.）*図書名（斜体）*．出版社地名：出版社，該当ページ.
例：Hall, S. (1990) ‘Cultural Identity and Diaspora’ in Rutherford, J. *Identity: Community Culture and Difference*. London: Lawrence and Wishart.

⑨　外国語論文：姓，名イニシャル.（刊行年）‘タイトル’*雑誌名（斜体）*巻：号，該当ページ.
例：Hayashi, K. (2006) “The Public’ in Japan’ *Theory, Culture and Society* 23:3, pp.615-616.

⑩　共著の外国語論文：姓，名イニシャル．and 名イニシャル，姓（以下同様）
例：Aksoy, A. and K, Robins (2000) ‘Thinking across spaces Transnational television from Turkey’ *European Journal of Cultural Studies* 3:3, pp.343-365.

以上